



ボッシュ:2018年の売上高と業績が過去最高水準

2019年1月30日

PI 10838 RB Ka/BT

- ▶ 事業売上高は 779 億ユーロに増加
- ▶ 支払金利前税引前利益(EBIT)は 53 億ユーロに到達
- ▶ 売上高利益率は 6.9%
- ▶ 自動運転:約 40 億ユーロの先行投資を予定
- ▶ e モビリティ:2025 年に 50 億ユーロの売上高達成を目指す
- ▶ AI(人工知能):2021 年までに 4,000 人の AI エキスパートを雇用

シュトゥットガルト(ドイツ)– ボッシュ・グループは、景況が厳しく、市場が弱含みで推移する中においても成長軌道を歩み続けており、2018年の事業売上高と業績は過去最高を記録した前年度の水準に達しました。暫定決算報告によると、2018年の売上高は 779 億ユーロ(約 10 兆円*)でした。為替変動のマイナスの影響を受け、売上高は 21 億ユーロほど押し下げられたものの、為替調整後で前年比 4.3%増となりました。「経済的に厳しい環境において、ボッシュは 2018 年も安定した実績を残すことができ、売上高と業績は 2017 年に引き続き過去最高水準に達しました」。ボッシュ取締役会会長のフォルクマル・デナーは暫定決算報告発表の記者会見でこのように述べ、さらにこう続けました。「私たちは技術革新のリーダーとして、テクノロジー、ビジネスの両面で私たちが関わる市場において変革を形作っていきたいと考えています。そして、コネクティビティにフォーカスした私たちの戦略は実を結びつつあります」。

ボッシュは、2018年に計 5,200 万台のネットワーク接続対応製品を販売し、この数は前年比で 37%増加しました。2018年の支払金利前税引前の営業利益(EBIT)も約 53 億ユーロ(約 6,900 億円*)に達し、売上高利益率は 6.9%でした。ボッシュ取締役会副会長で財務を担当するシュテファン・アーセンケルシュバウマーはこう述べています。「今年も景況が厳しく推移すると予測されていますが、ボッシュはそうした中においても、市場を上回る成長と高い水準の収益を目指します。全事業セクターが競争力を高め、技術革新をリードできるよう支援することで、ボッシュの未来を確実なものにしたいと考えています」

自動化 1:約 40 億ユーロの先行投資を予定

ボッシュの研究開発における中心的なテーマの 1 つが、自動運転です。Accident-free (交通事故のない)モビリティに向けた事業の一環として、ボッシュは 2 つの開発路線

を展開しています。その1つが、自家用車で部分的な自動運転(自動運転レベル2および3)を可能にするドライバー アシスタンス システムで、ポッシュはこの分野においてテクノロジー、市場シェアの両面でリーダーとしての地位を築いています。ポッシュは今年、ドライバー アシスタンス システムの売上高が20億ユーロを超えると予測しています。[2つ目の開発路線](#)となるのが、2020年代初めにスタートする[ドライバーレス自動運転](#)(自動運転レベル4および5)です。「ドライバーレスの自動運転は個々のモビリティを根本から変え、ロボットタクシーや[シャトルベースのモビリティ](#)など、常識を覆すビジネスモデルへとつながっていくでしょう」とデナーは述べています。デナーは、自動運転は技術的に複雑であるため今後は投資が焦点になる、と考え、「私たちは2022年までに、総額40億ユーロの先行投資をする予定です」と述べています。ポッシュでは現在、約4,000人のエンジニアが自動運転の開発に携わっています。

自動化 2: モビリティサービスのための包括的なエコシステム

パーソナルモビリティ(個人の移動に関する市場)は2015~2030年の間に50%増加するとされており、自動運転の市場潜在力は非常に大きなものです(出典:ITF)。アナリストはまた、今後10年間で自動運転関連のハードウェアおよびソフトウェアの市場が約600億ドル規模にまで成長すると予測しています(出典:Roland Berger)。そして2025年には、世界中を走る250万台のオンデマンド型シャトルバスの大半がドライバーレスになり(出典:Roland Berger)、2035年までにシェア型モビリティサービス関連の売上高が約1,600億ドルに達する、と専門家は見ています(出典:BCG)。ポッシュはこうした形態の[モビリティ](#)を、テクノロジーとサービスの両面でサポートしていきたいと考えています。[ポッシュのモビリティサービス向けのエコシステム](#)は、すでに予約、支払い、駐車、充電、管理/保守、インフォテインメントなどのサービスやソリューションを融合させています。これらのサービスの1つが、ネットワークに対応した電気自動車向けのナビゲーション&充電ソリューションである「[コンビニエンスチャージング](#)」です。このサービスについて最初の顧客となったのは、ドイツの電気自動車メーカー Sono Motors 社です。「私たちのIoTソリューションを通じて、eモビリティを日常利用に適したものにしと考えています」とデナーは述べています。

電動化 1: マスマーケットでリーダーシップを発揮

ポッシュは2018年に30件のeモビリティのプロジェクトに携わり、その総額は数十億ユーロに上りました。さらに、ポッシュは2025年までに、この分野の売上高を総額50億ユーロに伸ばすことを目指しています。「私たちは、eモビリティの[マスマーケット](#)で主導的な役割を果たしたいと考えています」とデナーは述べています。eモビリティ分野でポッシュほど多様な活動を展開している企業は他にありません。自転車からトラックまで、あらゆる種類のパワートレインの電動化に取り組んでいます。例えば現在、世界中の100万台以上の車両にポッシュ製の電動コンポーネントやハイブリッドコンポーネントが搭載されています。デナーはさらにこう続けました。「ポッシュ製の部品を搭載していない電気自動車は地球上に存在しない、といずれ言われるようになるでしょう」。これは特に世界最大のeモビリティ市場である中国に当てはまり、ポッシュはすでにこの地域の乗用車セグメントをけん引しています。ポッシュは昨年、電動自動運転について中国の電気自動車メーカーの[NIO](#)社と戦略的パートナーシップを結びました。ポッシュは

また、2019年中国において、電気自動車向けの非常にコンパクトなパワートレインソリューション「[eAxle](#)」の量産をスタートさせる予定です。さらに数週間前には、新たに開発された [48V バッテリー](#) が中国で量産体制に移行しました。早ければ2030年には、世界の新車の約20%が48Vシステムによって部分的に電動化されることになるでしょう。

電動化 2: 物資の輸送の電動化

世界の貨物輸送量は、2030年までにほぼ倍増すると見られています(出典:ITF)。「トラックはパワフルであるべきですが、環境や大気環境にマイナスの影響を与えるべきではありません。そこでカギを握るのが、電動化です」とデナーは述べています。早ければ2030年には、新規登録された世界の商用車の約4分の1(中国では約3分の1)以上が部分的に電動化される見込みです。ポッシュの製品ラインナップには、[電動貨物二輪車向けの36Vパワーパック](#)、ドイツポストの「StreetScooters」のような小型商用車向けの電動[モーター](#)、小型/大型トラック向けの「eAxle」、セミトレーラー向けの[電動アクスル](#)、さらに [40トントラック向けの燃料電池パワートレイン](#) など、排出ガスのない(Emission-free)貨物輸送を可能にする各種製品が含まれています。「部分的電動化、完全電動化、バッテリー駆動、燃料電池のいずれにおいても、私たちは市場に対応する準備をすでに整えています」とデナーは述べています。

AI(人工知能)1: ポッシュの専門知識の主力分野に

ポッシュの主力分野の1つがいずれ、[AI\(人工知能\)](#)の産業面での活用になっていくとデナーは捉えています。「ポッシュは2020年代半ばまでに、ポッシュの製品すべてにAIを搭載するか、またはAIが製品の開発・製造に関わるようにしたいと考えています。現在は、北米と中国の企業が消費財産業のAIで優位な立場にあります。しかし、交通、製造、建物などの分野の専門知識がなければ、産業用AIの可能性を完全に引き出すことはできないでしょう」とデナー。ポッシュがこれについて野心的な目標を設定しています。「私たちは技術革新のリーダーとして、AIを自分たちで使いこなし、AIの世界大手の一社になりたいと考えています」。この目標を達成するために、ポッシュは2021年までに自社のAIエキスパートの数を現在の4倍、つまり1,000人から4,000人に増員することを計画しています。

AI(人工知能)2: 路上と宇宙にまたがるポッシュのAI

[AIセンター\(BCAI: Bosch Center for Artificial Intelligence\)](#)では、数多くの従業員が150件以上のプロジェクトに携わっています。そのうちの1つが、センサーシステム「[SoundSee](#)」です。「このSoundSeeのアルゴリズムは機械学習を応用し、故障の兆候を聞き取ります」とデナーは説明しています。これにより、機械の故障を正確に予測できるようになり、メンテナンスコストの削減や生産性の向上にもつながります。この「SoundSee」は今年の中頃に、国際宇宙ステーション(ISS)に送られることになっています。ポッシュは、このソリューションを製造、建物や自動車工学などの商業用途に活用できると見えています。AIの[進化](#)のもう1つの例は、画像処理アルゴリズムとAIメソッドを組み合わせた自動運転用の多目的カメラです。この車両向けのインテリジェントなカメラは、例えば歩行者を発見し、すぐにその挙動を認識・予測することができます。

職業訓練:「ラーニングカンパニー」と「Bosch Tube」

ボッシュは毎年、従業員の職業訓練のために約 2 億 5,000 万ユーロを投入し、約 1 万 9,000 種類におよぶプログラムを展開しています。これらは、新しい事業分野に積極的に参入できるよう、従業員が準備を整え、スキルを獲得することを目的としています。さらに、従業員の日常業務に学習を組み込むことを目指すイニシアチブ「ボッシュ ラーニングカンパニー」も立ち上げられました。これにより、教室で受講する一般的なコースに加え、外出先でも学習できるアプリやビデオ教室も新たに利用できるようになりました。「ボッシュ ラーニングカンパニーは、学ぶことについて従業員各自が責任を持ち、自分のペースで進められるよう後押しする取り組みです」とデナーは説明しています。さらに、ボッシュ従業員のための YouTube とも言える「Bosch Tube」が新たに始まりました。自分でビデオチュートリアルを作成して「Bosch Tube」にアップデートすることができ、ここにはオンラインの動画授業のライブラリ全体も含まれています。

機動性:1つの目標に向かう本社部門組織

ボッシュは年初に、本社と事業部門との連携方法の見直しを行いました。「この見直しは、事業部門がモビリティソリューションや IoT に関連したネットワーク化事業を展開するときに、本社部門が事業部門をしっかりとサポートできるようにするために行いました」とデナーは述べています。そのために、ボッシュは購買や人事などの本社部門の構造を簡素化し、40 に上る本社部門を 20 に集約しました。さらに、本社部門を担当する取締役を 8 人から 4 人体制に変更し、他の取締役は事業部門の責任を負うことになりました。現在は購買、財務、人事、IT などのボッシュ本社部門で、合わせて約 2 万人の従業員が働いています。

2018 年の事業セクター別業績

ボッシュの事業セクターは 2018 年に、全体的に良好な業績を達成することができました。**モビリティソリューションズ** セクターの売上高は、世界の自動車業界の成長率を今回も上回ることができました。暫定的決算では、売上高が 2.3% 増(為替調整後は 4.7% 増)の 470 億ユーロに達しました。**消費財**セクターについては、売上高が 3.2% 減の 178 億ユーロとなりました。為替の影響を大きく受けたことと、主力市場で厳しい価格圧力にさらされたことが、BSH Hausgeräte GmbH と電動工具事業部の業績に影響することになりました。その影響を差し引いた後の売上高の伸びは 0.9% でした。**産業機器テクノロジー** セクターの売上高は 8.9% 増(為替調整後は 11% 増)の 74 億ユーロに達し、事業セクター全体で最も力強い成長を見せました。同セクターの中でも特に好調な業績を挙げたのが、ドライブ & コントロール テクノロジー 事業部です。また、ボッシュは現在、同セクターの包装機械事業の売却を予定しており、現在売却先を探しています。**エネルギー・ビルディングテクノロジー** セクターの売上高は、2.3% 増(為替調整後は 4.7% 増)となる 55 億ユーロの売上高を達成しました。

2018 年の地域別業績

2018 年の**欧州**でのボッシュ・グループの売上高は 410 億ユーロに上り、前年比で 2.1%、為替調整後では 3.7% の伸び率となりました。この成長に大きく貢献したのがドイツとオーストリアです。北米でのボッシュ・グループの売上高は、為替調整後で 7.9%

増、名目ベースで 2.8%増の 123 億ユーロに達しました。この売上増の大きな要因は自動車業界の復調です。一方、南米の売上高は前年を下回りました。特にブラジルとアルゼンチンの主力市場で為替のマイナスの影響を大きく受けたことが、その主な要因となっています。名目ベースの売上高は 14 億ユーロで、前年比 7.8%の減収となり、為替調整後の売上高は 8.9%増加しました。アジア太平洋地域(アフリカを含む)の売上高は、0.4%増(為替調整後は 3.1%増)の 232 億ユーロに達しました。なお、同地域は総売上高の約 30%を占めています。

従業員数:約 7,800 人増加

2018 年 12 月 31 日時点で、ボッシュ・グループの総従業員は全世界合わせて約 41 万人となり、前年比で約 7,800 人増加しました。特に増員されたのは欧州とアジア太平洋地域で、ドイツ国内では約 1,700 人増えました。ボッシュは、IT やソフトウェア関連のエキスパートを引き続き増員したいと考えています。

2019 年の展望:高いレベルの収益を確保

2019 年の世界経済について、ボッシュでは 2.3%前後の成長に留まると見えています。「私たちが設定した慎重な展望は、英国の EU 離脱をめぐる未解決の問題や貿易摩擦など、地政学的要因に由来するさまざまなリスクを考慮しています。さらに、報復関税や自由貿易協定の撤回という形で現れているかなり保護主義的な経済政策、そして個人消費や個人投資の低迷も影響しています」と、ボッシュで財務担当取締役を務めるアーセンケルシュバウマーは述べています。そうした中において、ボッシュは今年も市場を上回る成長を遂げ、多額の先行投資を行いながらも高いレベルの収益を確保し続けることを目指します。

*2018 年の為替平均レート、1 ユーロ=130.92534 円で計算

報道関係対応窓口

Sven Kahn

電話: +49 711 811-6415

Twitter: @BoschPresse

René Ziegler

電話: +49 711 811-7639

Twitter: @rene_ziegler

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2018年の従業員数は約41万人(2018年12月31日現在)、暫定決算報告での売上高は779億ユーロ(約10兆円*)を計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングカンパニーとして、スマートホーム、スマートシティ、コネクテッドモビリティ、さらにコネクテッドインダストリーに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたイノベーションの提供を戦略的な目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社 440 社、世界約 60 カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界 125 の拠点で約 6 万 9,500 人の従業員が研究開発に携わっています。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ(1861～1942年)がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の92%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

*2018年の為替平均レート、1ユーロ=130.92534円で計算

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト (英語)

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス (英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター (ドイツ語)

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト (日本語)

<https://twitter.com/BoschJapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター (日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック (日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube (日本語)